

令和3年度 第6回社会教育委員会会議録

開催日時：令和4年3月10日（木）

午後1時30～2時30分

開催場所：恵那文化センター2階多目的研修室

・開会あいさつ

・議題

1. 令和3年度第3回社会教育委員会会議録について
2. 令和3年度の振り返りと次年度の取り組みについて

・その他

・閉会あいさつ

・出席者の数：社会教育委員14人中10人、事務局3人（以下のとおり）

	役職	氏名	選出団体等	出欠
1	委員長	林 達夫	三学のまち推進委員会委員	出席
2	副委員長	磯部 彰	図書館協議会	出席
3	委員	山内 正一	学識経験者	出席
4	委員	山田 恵市	文化振興会	出席
5	委員	相原 正文	恵那市青少年育成市民会議	出席
6	委員	森川 伸江	保育士・幼稚園教諭経験者	欠席
7	委員	柘植 俊夫	民生委員児童委員協議会	出席
8	委員	柘植 弘成	壮健クラブ連合会	欠席
9	委員	松村 通男	NPO まちづくり団体	欠席
10	委員	田口 容子	放課後子ども教室コーディネーター	出席
11	委員	各務 周和子	保育士・幼稚園教諭経験者	出席
12	委員	伊藤 幸正	恵那ライオンズクラブ	出席
13	委員	阪上 美代子	恵那市スポーツ推進委員連絡協議会	出席
14	委員	石山 文香	校長会代表	欠席

事務局

1	教育長	大畑 雅幸	恵那市教育委員会	出席
2	課長	鷹見 健司	生涯学習課	出席
3	課長補佐兼係長	新村 宏一	〃	出席
4	主査	今井 ちえこ	〃	欠席

5	社会教育指導員	遠藤 滋	〃	出席
6	社会教育指導員	太田 礼子	〃	出席

・開会（事務局）

定刻になりましたので、これより令和3年度第6回目の委員会を開会します。私は、本日の進行を務めます生涯学習課の新村です。それでは、最初に資料の確認をさせていただきます。両面刷りの会議次第が1部、A4横の資料が1部、A3横両面刷りの資料が1部、その他刊行物をお手元にご用意してあります。不足の方がお見えでしたらご連絡ください。

開会に先立ちまして、事務局よりお知らせがあります。

コロナ禍における会議のため、「検温」及び「手指の消毒」にご協力いただきありがとうございました。会議中の「マスクの着用」にもご協力いただくようお願いします。

また、まん延期間中の会議であります。会議時間は60分を目安に行いたいと思いますので、皆さまのご協力をお願いします。

なお本日、ご都合により5番の森川委員、8番の柘植委員、9番の松村委員、14番の石山委員が所用のため、欠席の連絡を受けていますのでよろしくお願い致します。

それでは、事務局を代表しまして、大畑教育長より挨拶を申し上げます。

・あいさつ（教育長）

皆さま、こんにちは。このような時期にご出席賜りましてありがとうございます。

本日は第6回の最終回でございますが、年度を締めくくるといことです。

私が、社会教育委員会に出席しはじめの頃は、教育委員会が旧制度の時代で、社会教育委員会で一番力を入れていたのは家庭教育でした。そして、その中のひとつのテーマに、子どもたちがスマートフォンを持ち出す時代でしたから、これについてのモラルであるとか、家庭での持たせ方などをいろいろ検討いたしまして、1年かけて皆さまと協議を重ね、当時の龍田和子委員長に社会教育委員会としての提言書を提出していただきました。新制度になってからは、各地域に配置している三学塾塾長の役割や在り方について提言をしていただきました。

教育委員会は、どちらかという和学校教育にシフトしておりますが、社会教育委員会は、委員の皆さまの選出団体がこれだけ各分野に渡っており、いろんな方面から手広くご意見をいただいて、言ってみれば世の中の流れに沿った今一番の課題について検討いただいて、それをご示唆いただくというように今日まで来ております。今後ともよろしくをお願いします。

今、恵那市の課題はたくさんありますが、そのひとつは皆さまが予想する以上の急激な少子化です。例えば地区名を出して恐縮ですが、2月末で明智町に生まれたお子さんは7人です。私は元教員ですが、かつて教壇に立っていた頃、明智小学校、中学校は1学年3クラスぐらいありました。山内委員とは同い年で、私が山岡小、山内委員が明智

小におりましたが、3クラスありましたね？それが今7人。6年後、その子たちが小学校に上がりますが、来年度の出生数もこの調子で少ないと、明智小学校でも複式学級になってしまいます。複式学級の上限が15人ですので、それを超えないと分かれません。この流れに逆らうことはできないので、どうしたらいいかということ子どもたちは着々と育っているわけですから、たとえ少人数であっても負けないような学校教育、地域の教育をしなくてはいけないと考えています。その時に、学校運営協議会や、地域に軸足のある地域学校協働活動が連携し、多方面から、子どもたちに多様な体験をさせ、多様な刺激を与える中で、子どもたち自身が自分で考えて、自分が将来生き抜いていけるような力をつけることが必要だと思います。

もうひとつは、テレビでもよくやっているSDGsです。色んな方面で17項目ありますが、私は一番の大元は人権感覚だと思います。いじめがないか、上下関係、男女の問題等、表に見えてこない部分がたくさんあります。思春期の子どもたちは、学校へ登校して来ても自分の苦しみとか家庭の困難さは出しません。そういう所を、私たちはよく観察して、情報収集して、どの子も良好に成長してけるように考えていかなければならない。そういうことで言うと、SDGsもひとつのテーマになると思います。

いずれにしても極端な少子化に伴い、学校も小規模化しておりますので、先生が少ししかいません。これを補うのは地域の皆さまの教育力をお借りして、他の自治体に負けないような子どもを育てていくことに尽きると思っております。明日は中学校の卒業式です。本年度が終わります。令和4年度、コロナがどうなっているかわかりませんが、どうかそういう中であっても、たくましい子どもたちが育つように、また今回大人の話はしませんでした、生涯学習宣言をしている恵那市ですので、是非ともそちらにも目を向けていただき、ご尽力いただきたいと思っております。本当にお世話になり、ありがとうございました。

(事務局)

大畑教育長ありがとうございました。

続きまして、林達夫委員長よりご挨拶をいただきたいと思っております。

(委員長)

こんにちは。恵那市の教育長は、社会教育委員会にも出席して下さるので大変嬉しく思います。他市は、どちらかと言うと学校教育は一生懸命やられますが、社会教育委員会まで参加し、ご指導されるということは少ないようです。教育長がバックで支えて下さるので私たちは自由にやれる、思い切ってやれるということで、本当に長い間、教育長にはお世話になりありがとうございました。これからもよろしくお願ひします。

新型コロナ、オミクロン株はどんどん伝染し、高止まりで、上下するようですが、これ以上増えないのではないかと聞きました。制限内容については、だいぶ緩和され、施設も貸し出してもらえ、部活動やクラブもできるようになりました。今まではずっとできませんでしたが、これからはやれる。私も土日に瑞浪の陸上クラブを久しぶりに開催し、指導に行きましたが、子どもたち、特に中学生は練習ができないと本当に発散がで

きず、身体も心も消化不良を起こしていないかと思います。一昨年、中体連の大会が中止になり、子どもたちは一気に意欲をなくして、気力がなくなり、力が弱くなってしまったことを覚えています。しかし「高校で陸上を続けるよ」と、ずっと頑張って目標をきちんと持っている子もいました。そんな子は、陸上クラブにも一生懸命参加して、卒業しても頑張っている子もいます。これからは、大人も子どもも、いかに具体的な目標を持たせて継続させていくか、また、意欲が減退しないように大人がどう支えていくかが大切だと思います。特に社会教育では、こども園の頃から、小・中・高校と意識が高まって落ちないよう意欲化を図り支えていく必要があるのではないのでしょうか。一般社会、新入社員についても、先輩がどう支えていくかが大切かと言われる。今の若い子は弱い。私たち団塊の世代は、人に負けると落ちこぼれてしまうと恐れ、切磋琢磨、一生懸命競い合ってきましたが、今はそういうことではなく、若者をどう支えていくか、その支える基が社会教育ではないかと思っています。

来年度も社会教育の充実を図っていきたいと思いますので、今年度最後の会が充実するようよろしくお願いいたします。

(事務局)

林委員長ありがとうございました。

それでは早速ですが、議題に入らせていただきます。進行につきましては、規程により林委員長に務めていただきますのでよろしくお願いいたします。

・議題

1. 令和3年度第3回社会教育委員会会議録について

(委員長)

会議録は事前に配布されておりますが、変更点・気になる点ありましたら、会終了後に事務局へ提出してください。

2. 令和3年度の振り返りと次年度の取り組みについて

(委員長)

議題2について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

A4横の資料、活動報告と書かれた表について説明いたします。

まず、社会教育委員会として今日が6回目最終の委員会となっております。6月9日の第1回から始まりまして、社会教育委員会単独だけでなく、研修会や講演会を兼ねての開催とし、計6回となっております。

その中で、今年度の主要活動、柱の一つとして、地域学校協働活動の推進。それから柱の二つ目として家庭教育支援計画の事業進捗管理ということで挙げています。

先ず、地域学校協働活動におきましては、7月16日に文化センターにおいて「地域学校協働活動推進員研修会」として岐阜県の地域学校協働活動センターのセンター長を

務めておられる益川浩一先生にお越しいただいて、地域学校協働活動の推進員と合同で研修を受けていただきました。その中で「地域学校協働活動とはどういうものか」を学んでいただけたと思います。続きまして、11月10日に地域学校協働活動講演会として、文化センターで開催しました。栃木県の廣瀬隆人先生にリモートで参加していただき、皆さまに聞いていただきました。この時、各コミュニティセンターにサブ会場を設けて実施しました。100人強の参加があり、盛況な講演会となりました。全国的な地域学校協働活動の流れを学んでいただきました。恵那市の地域学校協働活動の活動については、後ほど遠藤指導員より説明いたします。

それから、昨年度に第5期家庭教育支援計画を策定しておりますが、10月の委員会では進捗状況の確認方法を検討していただきました。事業一覧が、計画の中に差し込んであります。家庭教育は分野が広いため、担当課が分かれています。担当課で実績を入力し、来年度の委員会で令和3年度の状況を検証させていただきたく考えています。ただ、令和2年度、3年度とコロナ禍において、事業が思ったように展開できていないため、今までのような比較にはならないかもしれませんが、進捗の説明をさせていただけたらと思っています。

社会教育全般に関わっては、各種行事・研修大会を記しております。特に今まで経験したことのない、単年度で2回の成人式を行いました。令和3年の成人式を1月に開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で、5月のGWに延期しました。また、初のサテライト方式を取り、文化センターをメイン会場に、恵那北中、岩村、山岡、明智にサブ会場を設けました。

6月12日、コロナ禍ではありましたが、恵那市少年の主張大会を開催しました。16名参加があり、優勝の恵那西中学校の陶川美穂さんは、岐阜県大会で第3位という好成绩を収められ、本人も非常に喜んでおりました。

8月20日、東濃地区社会教育振興協議会研修は、コロナの関係でメイン会場とサブ会場に分かれての開催でした。サブ会場の市民会館にお集まりいただいた方、メイン会場の中津川市に行っていた方、双方ありますが、田口委員には恵那市の放課後子ども教室の活動について発表していただきました。

10月8日、岐阜県社会教育推進大会も分散方式で、メイン会場は瑞浪市、サブ会場は市役所西庁舎で行いました。社会教育委員の活動ということで、山内委員に恵那市の実践発表をしていただきました。

例年、東海北陸社会教育大会に皆さまと参加するところですが、今年度県外からの一般参加は中止ということで、リモート開催となりました。

1月9日、令和4年成人式、今年度2回目でしたが、恵那文化センターのみ、1会場で開催しました。1週間ずれていれば、オミクロン株が猛威を振るった時期であり、このタイミングで開催できて本当に良かったとふりかえっております。

本年度、社会教育委員の皆さまには、それぞれの場面でご協力いただきまして、誠にありがとうございました。地域学校協働活動のことについて、遠藤指導員から説明させ

ていただきます。

(事務局)

A3裏表の一覧表をご覧ください。4年目を迎えた地域の学校運営協議会へ、昨年度から1年かけて出向いて、地域学校協働活動の説明させていただきました。実際のところ1年でここまでできると考えておりませんでした。「地域学校協働活動とは何だ?」ということについて、色々と理解してもらおうところからの出発でした。今年度は全ての推進員が担当する校区の学校運営協議会に所属しております。作成していただいた設置要綱、組織図は細かいですが、活動そのものは、地域学校協働活動だからといって、新たなことをするのではなく、今までで続けてきたものを進めていけば良いと思います。放課後子ども教室も20年近くやっていますので、そういうものを続けていけたら良いと思います。こういった取り組みは、東濃5市の中では先陣を切って進めています。中津川市は、来年度すべての地区ではなく、できるところから推進員を委嘱する方向です。恵那市は、全ての小中学校でコミュニティスクールができあがって進んでいますが、他市はコミュニティスクールができあがっていないところもあります。コミュニティスクールと地域学校協働活動を一緒に立ち上げてやっていく形になるようです。恵那市が地域学校協働活動を進められているのは、委員の皆さまや推進員、地域の方々のご協力があったことで大変ありがたく思っています。

今後、各地域から1年間の活動報告書を集め、まとめた冊子を作ります。できあがりましたら、委員の皆さまにもお届けします。簡単ではありますが、今年度の振り返りの説明とさせていただきます。

(委員長)

ありがとうございました。

社会教育委員会全体としての活動と地域学校協働本部の活動の2つでした。皆さま順番にご意見をいただきたいと思えます。

(委員)

私も大井町のコーディネーターという立場で、立ち上げの時には柱をどうするかと話し合い、推進員を中心に行動的な活動をしています。具体的には小学校2校と中学校1校で、小学校ではボッチャの推進、中学校では前から進めていた大井町の地域防災に取り組んでいます。

(委員長)

複数の学校をまとめてやっていくのは大変だと思いますが、実践しながら改善をして、子どもたちに活かせるようにお願いします。

(委員)

中野方は雰囲気がよく、子どもたちも生き生きとしていて、地域の人たちもまとまっているなど感じます。

(委員長)

中野方は以前から充実していますので、さらに頑張ってもらいたいと思います

(委員)

推進員の活動は数えるほどしかありませんでした。子どもたちも、体育館等学校施設が借りられないとのことで、活動ができていません。子どもたちもかわいそうです。私たち大人も外に出ていかないと億劫になってしまいます。21日からはスポ少もできるだろうと準備しています。

(委員長)

そうですね。ありがとうございます。

(委員)

大井町地域学校協働活動本部に参加しています。活動はあまりできていませんが広げればすぐできるボッチャのコートを作り、大井小・第二小の学童で行いました。色んなところで広めていきたいと思っています。

(委員長)

ボッチャは他地域でも広めていただきたいと思います。例えば、主任児童委員の会議の時に体験してもらってはどうでしょう。体験しないと面白さは伝わらないのでやってもらえたら良いと思います。

(委員)

確実に、着実に、無理のない範囲で、それぞれの地域が動き出したとびっくりしています。学校が、地域の力を借りる学校運営協議会、地域が地域づくりのために学校の力を借りる地域学校協働活動の両輪で、それぞれがうまく地域に合うように動き始めたことがよく分かりました。これからコーディネーターの働きで多くの人に参加して、楽しさをつかんでいけると、地域の中にどんどん浸透していくのではないかと思います。まず動き出すことが大事だと思っています。

(委員長)

ありがとうございます、とにかくやってみることだと思います。

(委員)

地域の人たちが広げていくという話があり、私も自治会の会合で学校との関わりを持てればと思っておりましたが、年3回の自治会が全部中止となり、その思いを遂げることはできませんでした。不自由な中で他地区との会合を持つということでリモート会議に参加しました。会議は顔を突き合わせてやるだけでなく、そんな方法もあるのかと感心し、人間色々考えれば乗り越えられると感想を持ちました。これからまだまだ厳しいと思いますが、そんな中で知恵を出していきたいなと思います。

(委員長)

ありがとうございました。いろんな方法があり、これからも工夫してやっていければ良いと思います。

(委員)

以前も申し上げましたが、コロナ前は恵那市の公式サイトを開くと「地域自治区と生涯学習のまち恵那」と出てきて好印象でした。「そうか、そんなまちか、住んでもいい

な」「ここで子どもを育てたいな」と思えるようで嬉しかったのですが、2年前からトップページがコロナ一色になりがっかりしていますが、どこかで脈々と続いているとも感じています。また続いていくものだと社会教育委員として願っています。

10月コロナ禍であっても、私の知りうる2つの事例を、やりくりをしながら活動できたことと議事録に載せていただきました。

昔からたくさんの方の行事を大人や地域でやっていた学校は、学校運営協議会で精選し、学年発達に合わせて整理し、うまく機能しているようです。そこに、ずっと地域学校協働活動が入ってきて活動を増やしたい人もいるし、そうでない人もいるので、そこはガイドラインなどを整理していけるといいと思います。

昔、校長会で問題になったことがあります。職場体験についてです。職場体験も広い意味で言えば、地域学校協働活動の一環です。職場体験の時に子どもは保険に入っているし、中学生までの医療費はケガや病気になっても無料です。学校として万全を期したつもりで職場体験で、ガソリンスタンドの圧力コンプレッサーの機械を使っていた子どもが手を放し、社長の目に当り失明状態になってしまいました。ご協力願って、PTA役員までやってもらった方でどうしようかと校長会を開いて検討した結果、PTA行事として、PTA保険でお見舞金だけでも出そうとなりました。子どもを守る制度とともに、お世話になる人を守る制度を確立しないといけない。恐れすぎる必要はないが制度設計やガイドラインに入れるといいと思います。

(委員長)

ありがとうございます。

大事なことです。良い取り組みをしても、ケガをするとマイナスになってしまうので、指導してくださる方、協力してくださる方への補償を考えていくことも検討課題であると思います。

(委員)

一般質問で、部活動の指導者にライセンスを与えると教育長が発言してみえたので、併せて考えて柔軟な対応ができたらと話させていただきました。

(委員長)

まずはやってみて、想定外の問題が出てきたらすぐに対応できるようにしていければと思います。大人は、あれも教えたい、これも教えたいと欲張りなので、カリキュラムも一覧表も作ってみて初めて分かるものです。今年度やってきて、課題も見えてきて、良い実践になったのではないかと思います。

(事務局)

例えば東中学校の学校運営協議会では、西尾市議が中心となって、部活動を先生任せにせずに、地域の方が指導に入るように動いています。部活動だけでなく、職場体験も地域の協力ができないことです。

(委員長)

部活動は来年選択制になるのでは？という話を聞きました。これまでは全員が部活動

に参加しなければなりませんでしたが、帰宅部も認められ、その時間を習い事に使えるようになります。そうすると、一番体力が伸びる中学生の時期に、体力を高める活動ができなくなります。やってみると色々な弊害が出てくると思いますが、それをどう改善していくかは、それぞれの中学校の運営協議会で話していただくことになると思います。

保険については、部活動はわかりませんが、クラブはクラブの経費で指導者に保険をかけているところが多いと思います。

(委員)

地域学校協働本部の連絡協議会はありますか。

(事務局)

本部はありませんが、推進員の連絡協議会はあります。

(委員長)

何か問題があれば事務局の方に報告いただいて、社会教育委員会の中でも検討していきたいと思います。

(委員)

1年目でありながら、今回初めての出席ということで、皆さまにはご迷惑をおかけしております。どういう風に把握していいかわかりませんので、私たち恵那ライオンズクラブとしては、青少年育成という形で取り組んでいます。ここ2年、コロナ禍の中で、変異株も猛威を振るっておりますが、コロナをどう倒していくかという、人それぞれではなく、一人一人が絶対気を付けなければならないと、ライオンズクラブでも強く言ってきました。そして、青少年育成の関係でライオンズクラブの大会では、野球、剣道、柔道、バスケット、何も協力できず、中学生たちの寂しい生活を見てきました。社会教育がどういうものか、今のところわかりませんが、皆さま方にこのコロナを整理いただきたいのが第一の要点です。夜8時までは、お酒が飲めると飲み交わしている大人がいるようですが、それではいけないと思います。私も声が大きいので、飛沫を避けて喋らないようにしていました。韓国でも34万人の感染者とニュースでやっていましたが、コロナが広まらないように、今は一人一人が気を付けるしかないと思います。

そして、我々が担っていくのは子どもの教育です。偉そうなことを言っているかもしれませんが、子どもたちが悪いのか、私たち親が悪いのか、現代はめちゃくちゃな子どもがたくさんいるように感じています。その辺を考えて、進めていただきたいと思わずし、私も頑張っていこうと思います。

(委員長)

ライオンズクラブは、どこの市も協力的でありがたいです。私は瑞浪の学校で勤めておりまして、その時もライオンズクラブに頼むとやってくれ、恵那市もきっとそうだろうと思っています。

(委員)

学校もライオンズクラブの会議に出ていただいているので、こちらもしっかり頑張りたいと思っています。良いまちづくりをしていきたいし、子どもの成長も見ていきたいです。

(委員長)

それぞれの立場でできることをやっていくというのが大事だと思います。毎日の積み重ねですので自分たちは何ができるか話し合っていきたいと思います。

(委員)

私は、中野方で民生委員、児童委員の立場として社会教育委員に携わっております。

学校との連携も必要と思っておりますが、主たるは主任児童委員が担っていて、コロナの関係で学校へも行けていません。中学校の運動会へは参加しましたが、卒業式への参加要請もなく、学校のことはわからないのが現実です。私の孫が小中学校にいますので、少しはわかっていると思います。

また塾長が一生懸命で、連携もとれており、PTA会長も参加してもらっていると聞いています。かるたとり大会は、こども園、小学校、中学校、大人も含めてやる予定でしたが、オミクロン株流行でできませんでした。民生委員としては学校への指導をさせていただきますたいと思っています。

(委員長)

社会教育委員が、いかにこども園や小学校、中学校へ入り込めるか、連携を取りながら子どもを知っていただくのが最初だと思います。そして、何が協力できるのか、何が一緒にできるのか、学校の校長、教頭と連携を取らないと無理なことはできません。

地域学校協働活動では、私の地域も1年間の流れができてきました。それをやりながら地域の実情に合わせて改善し、いいところは伸ばしていく、無理のないようにスムーズに続けられるようにしていきたいと思っています。実践がないと改善できない、できることをどんどんやっていきたいと思っています。

中野方の子どもたちはカヌーに乗っていますが、他の地域でも、声をかけていただければ指導者の紹介はできるようです。自分の地域だけではなく、恵那市全体として連携してやっていけると良いと思います。それがSDGsの動きにもつながるとも思います。

成人式が5月にありました。中止にするのは簡単ですが、それをどう中止せずにやっていくか、恵那市の教育委員会はそれがよくできていると思います。対象者の気持ちを汲んでどうしていくかを考えていきたいです。白川村は夏に開催しています。

それから、家庭教育支援計画を策定し、コロナでできなかったこともあると思いますが、各課で実績入力いただいたものを生涯学習課で統一して、数値化できるもの、できないものがあると思いますが、これから先の5年間の進捗状況の書き方を統一してほしいと思います。その他付け加えがあればお願いします。

(教育長)

閉会を前に、皆さまにお願いしたいことがあります。去年、今年度、何もかもがコロナ禍で中止・延期になり、恵那市の小中学校で集計が出たのを分析したところ、いじめの報告件数は減り、逆に不登校が増えています。まだまだ未熟な子どもですので、人が集まればいさかいがあり、「やられた」とか「言われた」とかが出てきます。コロナ禍で必然的に接点か減ったため、いじめは減りましたが、逆にそれぞれの子どもたちが孤

立をして不登校になってきています。また、少子化の中で、多くの高校が影響を受け、定員割れとなり、競わなくても入れてしまう状況の中で子どもたちが鍛えられています。そんな中で、3年生の秋になっても思うように成績が伸びないと不安になり、私学のお誘いに乗る単願でいくことがあります。かつては、私学もボーダーがありました。今は少子化で生徒の取り合いで成績もぐっと下がっています。そうすると、高校は高等教育ですので、勉強についていけなくなり、つまらなくなると、行かないようになる。そうすると、通信教育の話になりますが、粘り強くやっていくのが困難な子供たちには、通信教育は難しく、所属はするが、消えていくこととなります。中学卒業までは学校や地域の方々が子どもをよく見ていますが、盲点は中学を卒業してから成人するまでに消えていってしまうことです。恵那市でも引きこもりは人数が拾い切れておりません。社会教育委員会は、これから先、そちらにも意識を持っていただいて、子どもたちには、将来の恵那市を背負って行っていただきたい人材ですので、その子たちをどう支えるか、社会問題ですので、テーマの一つにしてほしいと思います。

(委員長)

今までの子どもと違ってきているので、社会教育委員会としてどう支えていくか考えていかなければなりません。これは地域学校協働活動をやりながら進めていけるのではないかと考えています。

(事務局)

社会性を育てるといいますが、1軒の家の中で、子どもと親だけで暮らしていると、子どもは外に出ようとしません。子どもの頃から、外へ出る楽しさや人の役に立てるといふ経験を積ませないと、社会のために貢献しようという気は起きないと思います。地域学校協働活動で、その意識を育てていけたらと思います。

(委員長)

地域学校協働活動で、中学生は大人と一緒に企画してもらおうと、より中学生の適正発達段階に合った活動ができると思います。小学生にはまだ早いですが、中学生は企画運営をして、小さい子の面倒を見ながらの色々な活動をさせていく、そんな賛助の仕方があるのではないかと思います。それによって社会性も自立も自主もついてきます。ボランティアとしてどんどん、地域の活動でもなんでも参加していただきたいと思います。笠置ではゆずの活動を中学生に担っていただいています。続いて、次年度について説明をお願いします。

(事務局)

特に資料は用意してありませんが、各委員からいただいた意見を参考にさせていただきます。また教育長からの高校生から成人のひきこもりについては、家庭教育支援計画にも位置付けている内容でありますので、今度どうするかを踏まえ、令和4年度の社会教育委員会の柱を決めながらやっていきたいと考えております。予定として、令和4年5月中に第1回社会教育委員会を開催したいと思っております。

先ほど、遠藤指導員からも話が出ていますが、地域学校協働活動は今年度から新たに

スタートした事業であります。それこそ、今年度におきましては、教育長、課長の方で議会とも交渉していただき、今年度同様の予算も確保できる見込みです。しかし、残念ながら、コロナ禍において色々な地域の活動ができなかったことで、今年度は予算が執行できないような状況でありますけれども、令和4年度も同等の予算を確保できるよう事務局も動いていますので、各地域でコロナが収まったのちには、色々な活動に取り組んでいただきたいと思います。その中で、先ほど出ておりましたボランティア保険についても、若干ですが予算の中に組み込んであります。十分には手配できるかわかりませんが相談してください。皆さまとともに地域学校協働活動を推進していけたらと思っていますので、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

・その他

(事務局)

各種刊行物はお目通しいただくようお願いします。

冒頭、60分を目安にとお伝えさせていただきましたので、最後ご挨拶いただくということでもよろしいでしょうか。

(委員長)

はい。

(事務局)

本日は、慎重審議、議論していただきありがとうございました。本日いただいた意見は来年度の取り組みに反映していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

最後に社会教育委員会を代表しまして磯部副委員長からご挨拶をいただきます。

(副委員長)

この社会教育委員会で、昨年度塾長の仕事について話し合い、検討をし、今年度に入りますには、地域学校協働活動の推進ということでやってきました。しかし、コロナということで色々制限されました。私は以前、職場では子どもたちに対し「何々だったからできなかったと口実にするな」と言ってきましたが、この1年を振り返ると私自身がコロナのせいにしてやらなかったことがあります。このことは自分の反省としていきたいと思っております。苦しいときこそ頑張っていかなければいけないと、身をもって感じましたが、社会教育委員会の皆さまは色々な立場から色々なご意見をいただき、かなり活発に協議ができたと思っております。そのことに感謝しながら1年間を終わりたいと思っております。ありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。

最後になりますが、事務局を代表しまして鷹見課長よりご挨拶申し上げます。

(課長)

社会教育委員の先生方、1年間誠にありがとうございました。来年度もよろしくお願いいたします。

先ほど伊藤委員より青少年育成という話が出てふと思ったのですが、委員長の方からも成人式の話があり、来年度4月1日からは成人が18歳となります。来年1月、成人式という名前を変えて「二十歳を祝う会」とか「集う会」という形で恵那市は従来通り20歳でお祝いしようと思います。18歳で成人ということになると、保護者の同意なしで契約行為ができますが、この弊害が必ず出てくるのではないかと危惧しております。そのあたりの勉強会を社会教育委員の中で学習できたらと思いました。委員長また相談させていただきたいと思います。その時には伊藤委員からもぜひご教示いただけたらと思います。

1年間活発な活動をしたかったのにコロナの影響でできなかったということもありますが、10月から乳幼児期家庭教育担当として採用となった職員が本日同席しております。郡上で市職員をしていましたが縁あってこちらに嫁いでみえたということです。一言あいさつをお願いします。

(事務局)

太田礼子と申します。

まだ半年も経っておらず、わからないことだらけですが、どうぞよろしく願いいたします。

(課長)

ありがとうございました。

任期の関係もありますが、委員の皆さま、また来年度もよろしく願いいたします。

これもちまして、本年度の最後の社会教育委員会を閉じさせていただきます。本日にありがとうございました。

令和4年3月10日(木)

社会教育委員会委員長 林 達夫

社会教育委員会副委員長 磯部 彰